

## ■学校経営のポイント

### 年度はじめの難問対応への布石

小島 宏

TVや新聞で報道される教職員の不祥事や学級（授業）崩壊は、大半は本人の資質能力が関係しているが、校長の学校経営方針の不徹底や教職員への指導の問題でもある。体験に基づいて、いくつかの対応戦略を紹介する。

#### 教員の不祥事への対応

セクハラ、公金横領、強盗、個人情報漏洩など教職員の不祥事が報じられるたびに、これらに関する指導や防止戦略の不備を感じる。

##### (1) 年度はじめに全体に指導する

教職員のサービス管理について、教育委員会の通知等を基に、印刷物を作成配布して全教職員に具体的に指導する。そして、いつでも確認できるよう週案等に貼り込ませておく。

##### (2) 定期的に指導する

学期はじめ、長期休業開始・終了時などの節目ごとに、(1)の再確認をし、注意を喚起する。

##### (3) 具体的な事例を挙げて指導する

新聞等で教職員の不祥事が報じられた直後に、その事実に基づいて、「本校の皆さんには関係ないかもしれないが、このような不祥事が起きているので参考のために……」と、具体的に指導する。新聞記事やネット検索のコピーを用いれば職員打ち合わせ時間の1～2分を活用してできることである。

##### (4) 絶えず牽制する

個人の人権やプライドに留意しつつ配慮を要する教職員に対して「親心」で日常的にかかわり、牽制し、「うっかり……」とか「でき心で……」というような隙を作らないよう支えることである。

#### 学級（授業）崩壊への対応

指導力不足の教員の話にも事欠かない状況がある。これも校長の戦略の立て方でかなりの部分を防止したり回復したりできる。

##### (1) 校長や教頭のうろうろ参観

崩壊が表面化してから慌てて対応する例が少なくない。校長や教頭は、絶えず巡回・観察し、学級経営の雰囲気、児童生徒の様子、授業の質を把握することが大切で、この問題の対応の前提である。

##### (2) 学年の協力的経営

校長は、学年はじめに、学年会や教科部会、各分掌に対して、①互いに助け合うなど校務分掌段階での協力、②同じ方針と方法で進めるなど生徒指導での協力、③教材研究や交換授業、授業での協力など、協力的な学年や教科等の経営を指示する。

##### (3) 崩壊状況の把握と対応

実際に崩壊状況が起こったときは、「①個人な指導で克服できる段階、②授業を一部軽減し、他の教員が補助的にかかわることで回復できる段階、③一部の校務分掌を軽減して経営や授業に専念させれば回復できる段階、④担任を交代させ、一定期間の研修をさせるべき段階」のいずれに該当するかを校長は判断し、速やかに対応する。②④は保護者への説明、④は教育委員会との連絡調整が必要となる。

##### (4) 学級経営の悩み相談

なお、学級経営や授業等に関する教員の悩み相談に応じる温かい雰囲気と親身の支援が、学校の中に醸成していることも重要である。校長や教頭だけでなく、頼りになる先輩や同僚の存在も大きい。

#### 校長の学校経営方針の周知徹底

校長は、教職員のサービスの厳正、学級（授業）崩壊の防止、生徒指導の充実、危機管理等についての経営方針を教職員に対して具体的かつ明確に伝える必要がある。

校長の学校経営の方針と重点が周知徹底すれば、教職員の意欲的な取り組みを喚起できる。

（こじま・ひろし＝（財）教育調査研究所研究部長）

●2012年4月24日発売！ 今日から始められる研修プログラム31と戦略12を収録！

## 「ワークショップ型校内研修」充実化・活性化のための戦略&プラン 43

【編集】村川 雅弘（鳴門教育大学教授）

B5判 240頁／定価 2100円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）